

高度化の波に乗れ

(下)

タイ製造業を支援する日系企業

モノづくりの高度化が進むタイは、製造現場を支える製品、サービスを提供する日系企業にとって有望市場だ。工業用センサーの製造販売を手がけるメトロール(東京都立川市、松橋卓司社長、042・527・3278)は、タイ市場を本格開拓するため、バンコクで現地法人の設立を準備している。

タイでの営業活動も進めている石橋達也セールスマネジャーは「面白い話はいくつか出てきている。景気が悪いといっ

ても、現地の元気がある会社はいっぱいある」と意気込む。

タイで拡販を狙うのは工具長測定機「ツールセッタ」。工作機械に装着し、工具の刃先の位置を調べるこの製品は、位置決めを容易にして精度や歩留まりを改善させる。

これまで同社の海外展開は、工作機械メーカーに納入することを想定して現地法人を設立していたが、タイで想定する顧客は現地企業の工場など工作機械のエンドユーザーだ。人件費高騰で、モノづくりの自動化への希

求が高まれば、必然的に工作機械の生産性と精度向上が求められる。後付けもできるツールセッタを持つメトロールはそこに商機を見いだす。

「工作機械を数百台単位で導入を計画するくらい客とも、商談を進めている。日本とは規模が全然違う」と石橋セールスマネジャーは、市場の有望性を感じている。

現地企業

日本製に熱い視線

金型製作向けのマイクログラインダーなどを販売しているナカニシ。タイと安部仁執行役員機



金型製作向けのマイクログラインダーなどを販売しているナカニシ。タイと安部仁執行役員機

メトロールの工具長測定機

▲.....

工本部長は頬を緩める。その背景にあるのは、現地の金型産業の技術力向上だ。「今まで安かろう、悪かろうだったお客のステータスが少しずつ変わっている。日本製のクオリティーがわかるようになってきた」と安部執行役員は見ると、

タイに進出している日系メーカーの現地調達が広がるにつれ、日本に頼んでいた金型の発注も、現地企業へと徐々にシフトしてきた。これを受け、現地企業も単純なも

のから難度の高い金型づくりをはじめ、技術力も上がっているという。その結果、安価な機械や工具を扱っていた現地企業も、高精度な金型を作るため、日本製に目を向けるようになったわけだ。

2014年度のこれまでのタイでの売り上げは、前年同期比で35%増と好調に推移。安部執行役員は「通期で見ても、同じぐらいの業績でいくだろう」と今後の業績にも自信をのぞかせる。

レベルアップを加速しているタイのモノづくり。踊り場にあるタイ経済だが、その水面下で渦巻く高度化の波には商機が潜んでいる。(名古屋・江刈内雅史が担当しました)